＜経営協力事例＞障害が重複する児童の教育相談の充実（２）＜転籍相談＞

①　就学時、肢体不自由教育部門に入学

就学時

- 歩行が不安定で、車いすを使用していた。
- 将来、転籍の可能性を考慮しつつも、自立活動を中心とした、基本的な運動動作の獲得とコミュニケーション能力の向上を大切にしたいという保護者の願いとともに、入学時の教育ニーズに応じるために、肢体不自由教育部門に入学した。

⇩

４年生

Ａさんとその保護者
（肢体不自由教育部門）

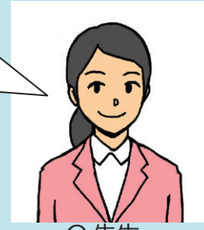
４年生になり、健康面での不安は少なくなり、歩行も先生と手をつないで長い距離を歩けるようになりました。
知的障害教育部門のことをもっと知りたいと思っていますが、Ａの歩行の力でついていけるのかとても心配です。

②　知的障害教育部門への転籍を検討

担任のＢ先生
（肢体不自由教育部門）

Ａさんは、手をつないで歩行が安定してきて、友達との関わりも積極性が見られるようになってきました。
運動量を増やし、体力を付けていくことも大切な指導課題になってきています。
保護者の方も、知的障害教育部門への理解が進んでいるようです。どのように進めていけばよいでしょう。

保護者が知的障害教育部門の教育に興味をおもちでしたら、授業の様子を見に来ていただいてはどうでしょうか。
保護者だけで参観することもできますし、お子さんと一緒に授業を体験することもできますよ。その後、詳しい授業の内容等説明すると具体的なイメージをもつことができ、保護者の不安が軽減されるのではないでしょうか。



Ｃ先生
（知的障害教育部門）

③　担任との相談→見学→体験

相談

- 保護者にとっては慣れ親しんだ友達や先生たちと別れて、新しい環境に飛び込むことや、運動量が大幅に増えることに大きな不安があった。
- 担任との面談や知的障害教育部門の先生の話を聞くなどし、時間をかけて少しずつ不安を解消していった。
- 肢体不自由教育部門と知的障害教育部門それぞれの専門性を生かした教育相談で、保護者の不安を和らげることができた。

⇩

見学

- 同一校内なので、教員間の連携が取りやすく、見学の予定調整がスムーズに行えた。
- １回の見学では不安が解消できなかったので、複数回見学を実施した。

⇩

体験

- 交流会などで、子供達同士が顔見知りだったこともあり、和やかに体験が実施できた。

④　現在の様子

現　在

小学６年生のＡさん

知的障害教育部門のことが気になっていましたが、思い切って担任の先生に相談して良かったです。
知的障害教育部門の授業の様子を見学したことで、興味がわき、行ってみたいと思うようになりました。たくさん体を動かす楽しそうな授業をしているな、と思いました。
また、お友達がいっぱいいて、とても楽しそうだと感じました。

Ａさんも、知的障害教育部門の体験を経験して、自信がついたみたいです。保護者と本人と相談して、Ａさんが中学部に入るときに転籍することとなりました。
同じ学校の中ですので、指導の経過や目標の引継ぎもスムーズにできると思います。

＜経営協力事例＞障害が重複する生徒の進路指導の充実

進路先の開拓と施設における活動プログラムの提案

①　障害が重複する生徒の進路選択の課題

Aさん

【肢体不自由教育部門 高等部 Aさん】

Aさんは普段は車いすで生活していますが、毎日の自立活動の時間には歩行練習を行っています。身体を動かすことで生活リズムが改善されるとともに体力が向上し、自立的な生活を送ることができています。

知的障害教育部門の重度重複学級の卒業生が通う「D生活介護事業所」が、時程やプログラムを少しアレンジしてくれたら、Aさんのニーズに合うと思うんだけど・・。

進路指導部会で知的障害教育部門担当のC先生に相談してみよう。

肢体不自由教育部門
進路担当　B先生

②　進路指導部内の情報交換

本校では、月２回の分掌部会を合同で行い、部門相互に課題を共有するようにしています。また、職員室では座席が隣同士ですので、いつでも相談できます。

「D生活介護事業所」では、利用者の加齢によって車いす併用の方も増えてきています。現場実習をしてみて、実際にAさんに適当であるかどうか、様子を見てはどうでしょうか。

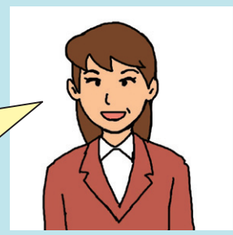
知的障害教育部門
進路担当　C先生

③　現場実習の実施と支援方法の相談

Aさんは、知的障害者を主な対象としたD生活介護事業所で現場実習をすることになりました。

主障害が肢体不自由という方はこれまで受け入れていませんでしたが、車いす併用の方も増えてきているので、Aさんもその方たちと同じグループで活動できそうですね。

引率の先生方から伺った、身体の取り組みや再調理の話は、職員にとって非常に勉強になりました。



D生活介護事業所
施設長

④　新たな進路選択肢の開拓と施設の支援力の向上

◆　現場実習の結果、Aさんは進路先としてD生活介護事業所を希望し、春から通うことになりました。身体面の配慮を受けつつ、介助歩行で事業所周辺を散策するのが楽しみの一つになりました。

◆　Aさんの事例を通して、事業所と肢体不自由教育部門のつながりができ、摂食指導や姿勢などの相談にも乗るようになりました。

◆　肢体不自由教育部門の新たな進路先ができ、より個に応じた進路選択が可能になりました。

◆　知的障害教育部門の重度重複学級の生徒に対しても、D生活介護事業所における支援内容がより充実することにつながりました。